

一日も早い人権救済を！

性同一性障害者からの訴え

見を受け続けています。

たとえば、医療機関では、保険証の性別が事実と異なるため本人と認められなかったり、就職時では、書類上の性別と異なるという理由だけで採用されないといった不当な差別や偏見を受けています。

また、性別適合手術後の新しい性で結婚したくても、戸籍上同性なので結婚することができません。

当事者たちは、このような事態から解放されるためにも、一日も早い法の整備が行われることを待ち望んでいます。

鳥取市の取り組み

今年、鳥取市議会では、性同一性障害者に対する人権保護施策についての請願が採択され、この人権問題の早期解決を求める意見書が国に提出されました。それに先駆けて鳥取市が行った申

請書や市が交付する書類などの不要な性別記載欄の削除は、性同一性障害者や性別記載に抵抗感を持つていてる人の不快感をやわらげているようです。また、書類を申請・受理する際に受ける差別と偏見を減らしています。

四月に行われた県議会議員選挙では、投票所入場券の性別記載が削除されたことから、やっと選挙権行使できた当事者もいました。

これら鳥取市の取り組みは、保守的なイメージの強い地方自治体では異例の行政改革だと思えます。

人にやさしい鳥取市を

鳥取市は、昭和六十二年に人権尊重都市を宣言しています。たった一人の人権侵害であつても社会全体の問題として捉えられる地方自治体が本当の人権尊重都市なの

ではないでしょうか。

人権問題についての先駆的取り組みができる地方自治体として、鳥取市はさらに大きく発展を遂げることができると思います。

「人に優しい鳥取市」「誰もが安心して暮らせる鳥取市」を目指して、今後もあらゆる人権問題に取り組んでもらいたいと願っています。

ふじむら 藤村 梨沙

生まれながらにして、心の性と体の性が一致しないため、強い違和感と不快感を抱く人がいます。この不一致を性同一性障害といいますが、この障害のため、生活するうえで差別や偏見などの深刻な問題が生じています。

許せない差別と偏見

現在、日本の医学界では、性別適合（性転換）手術が行われるなど、性同一性障害の治療方法が定着しています。

しかし、手術を受け治療しても戸籍の性別訂正が認められていないため、当事者は、さまざまな差別や偏



講演会で語る藤村さん